

「土砂災害についてもう一度考えよう」

千葉県 八千代市立八千代台東小学校 6年 高橋 利弥

水害、土砂災害のニュースを見る機会が多かった。水害、土砂災害のニュースを見ていると怖い。人命救助をしている場所でも、水が流れていたり、雨の中のそうさく中でも土砂が流れたり、道路が川みたいに流れていたり、自分の家の中の土砂をはき出したりしている人を見ると、災害は急にくるんだと考えさせられる。

ぼくが住んでいる所は、うらに山がある所も川が近くに流れている所もない。だから少し自分の事とは程遠いと感じていたけど、この間たくさん雨が降った時にけいたいのアラームが何度か鳴った時は怖いと思った。起きていて明るい時間ならまだ身動きがとれるけど、ねている時間だったから何もできなかった。もしうらに山があったらとか、もし川が近くで流れていたらと考えると、ひ難しないといけないのかと、その時災害のニュースの中の出来事が頭をよぎった。そう思ったらとても怖かった。ぼくの住んでいる所は何も被害はなくて安心したけど、長い時間ひ難情報などがテレビでながれていた。ひ難所には自分たちはいかなかった。しかし今思うとひ難場所にいけばよかったのか？とも思う。大雨のレベルなんて関係なしに、大雨が降ったらひ難所にいく事を考えないといけないと思うようになった。

台風の時など学校に行く時、風が強くぼう風警報の時は時間を遅らせて行くのと同じく、大雨警報が出た時もその場所の大雨のじょうきょうを学校が判断して遅らせてくれると、ぼくたちも安心、安全に通学が出来ると考えた。台風みたいに来るとわかっている事にはしっかりと対策をして、水や食料、明かりを用意するように、いつ災害が起こるかわからない事にもしっかりと対策をしなければならない。他の県で起きた災害を、しっかりとぼくたちが理解して、自分の命を守る行動を取らないといけない。それにはハザードマップでひ難場所や、危険箇所の確認や学校での訓練、家族との集合場所など、ふだんから話し合う事をして、もしもの時にそなえておくことがぼくが今できる事だと思う。あとはひ難バックに最低限の用意をする事で、ひ難先でも困らずにいられると思う。これから家族と確認、用意をしていく。